

2020

環境活動レポート



対象期間 : 2020年4月～2021年3月

発行年月日 : 2021年10月1日

三陸土建株式会社

目 次

1 挨拶	1
2 環境方針	1
3 事業概要&認証登録範囲	2
4 実施体制	2
5 環境目標	4
6 環境活動計画	5
7 環境目標の実績	6
8 環境活動計画の取組結果とその評価、次年度以降の取組内容	7
9 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価並びに違反、訴訟等の有	8
10 代表者による全体評価と見直し結果	8

1 挨拶

この度は、三陸土建株式会社の環境活動レポートをご覧頂き誠にありがとうございます。
企業は社会への貢献を目的のひとつとし、健全で持続的な成長をしていくことが重要な使命です。

弊社は豊かな自然と共存し、その土地で生活していく人々が快適に過ごせる環境を整えていく施工を行っていきます。

私は、弊社に出来る、社会的貢献とは何かを考え続け、社員が元気に、誇りを持って働ける企業として、エコアクション21に社員と共に取組み、社会的責任を果たしていきます。

代表取締役

木下 伸一

2 環境方針

《環境理念》

昭和24年の創業以来、住みよい社会基盤整備を作るため建設業を営んできました。岩手県全域を施工エリアとして、快適で安全な環境を作ることをモットーとしております。環境負荷の少ない施工体制を作り環境経営の継続的な改善を行ないます。

《環境保全への行動指針》

- 1、工事機器・重機は省エネ・低環境負荷タイプを適切に使用して、環境に配慮した工事を実施します。
 - * 低騒音・振動工事
 - * オイル等の流出防止
 - * 粉じんの飛散、汚水流出の防止
 - * 廃棄物の適正処分及び、リサイクルの実施
- 2、社内における省資源、省エネ、節水及びグリーン調達に努めます。
- 3、節電、節水、省エネ実践教育など、教育を通し社員の意識向上に努めます。
- 4、事業活動に関する法規制等は、確実に順守することを誓約します。
- 5、地域活動、環境保全活動への参加、地域との環境コミュニケーションに努めます。また、災害対応・除雪などに迅速に対応するため重機の整備管理を徹底します。

制定日：平成26年8月1日

三陸土建株式会社

代表取締役

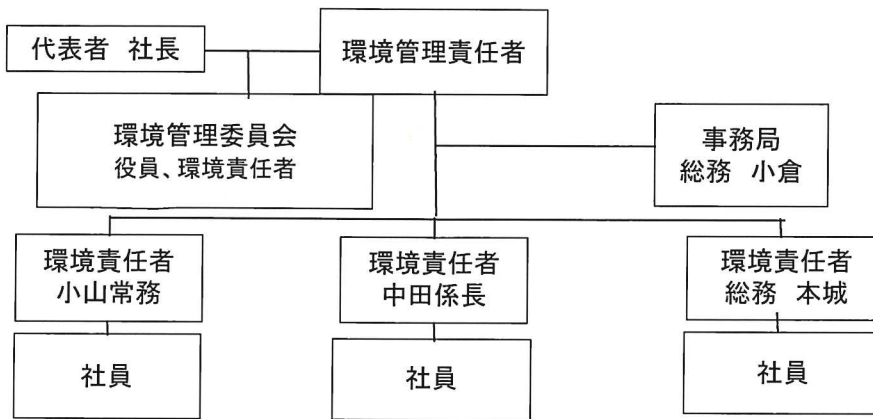
木下 伸一

3 事業概要 & 認証登録範囲

- 1 名称及び代表者名
三陸土建株式会社
代表取締役 木下 伸一
- 2 所在地
本社 盛岡市みたけ5丁目15番12号
資材置き場・駐機場 滝沢市砂込886-2
- 3 環境管理責任者及び担当者連絡先
環境管理責任者 総務部長 木下 光子 TEL: 019-646-5861
担当者 同上 同上 TEL: 同上
- 4 事業活動の内容
特定建設業(土木工事業、建築工事業、とび・土工工事業、鋼構造物工事業、舗装工
しゅんせつ工事業、水道施設工事業)一般建設業
- 5 事業規模 2020年度実績
資本金 4,800万円
完工高 233,758万円
従業員 46名
延べ床面積 事務所 397 m²
資材倉庫 38.2 m²
- 6 認証登録範囲
全サイト・全組織・全事業活動が認証登録範囲
- 7 営業範囲
岩手県内
- 8 社歴
1949年 5月 盛岡市駅前通りにて設立 代表取締役 木下和次郎
1961年 9月 代表取締役 木下 忠雄 就任
1971年 11月 代表取締役 木下 紘 就任
1975年 10月 盛岡市大館町へ移転
1988年 10月 資本金2000万円に増資
舗装・鋼構造物・水道施設・造園工事の許可を受ける
1998年 2月 資本金4800万円に増資
1999年 8月 盛岡市みたけに移転
2005年 3月 下水道函渠更生部門を開設
2006年 4月 建築部門を開設
2017年 7月 代表取締役 木下 伸一就任

4 実施体制

1 組織



2 役割・責任・権限

役職	役割・責任・権限
代表者(社長)	<ul style="list-style-type: none"> 環境経営に関する統括責任。 環境経営システムの実施に必要な人、設備、費用、時間、技能、技術者を準備。 環境管理責任者を任命。 課題とチャンスの明確化 実施体制の構築 代表者による全体の評価と見直しを実施。 環境方針を策定して社員に周知徹底・公表する。
環境管理責任者	<ul style="list-style-type: none"> 環境経営システムの構築、実施、管理。 環境活動の取組結果を代表者及び環境管理委員会へ報告。
環境管理委員会	<ul style="list-style-type: none"> 委員長は社長とし、環境管理責任者が召集する。 環境管理責任者の提案を審議し、決定事項を環境責任者は各部門で実施する。 内部監査の代わりに、計画の進捗状況・ガイドラインへの適合状況を審議し、不適合・不具合が有る場合は代表者、環境管理責任者に是正を勧告する。→月初会議にて報告
環境事務局	<ul style="list-style-type: none"> 環境管理責任者の補佐。 環境関連の外部コミュニケーションの窓口。 環境活動レポートの作成、公開(事務所に備付けと地域事務局への送付) 取組データの集計、取りまとめ及び文書記録類の管理。
部門責任者	<ul style="list-style-type: none"> 担当部門について環境経営システムを実施し、維持する。 省資源、省エネ、節水等の奨励・実施・確認・是正。
全社員	<ul style="list-style-type: none"> 環境方針の理解と環境への取り組みの重要性を自覚し、能力向上に努める。 決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加。

5 環境目標

1 主な環境負荷の実績

表1、主な環境負荷等の実績

項目	単位	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
二酸化炭素排出量	kg-CO ₂	510,281	1,021,511	871,417	723,955
購入電力使用量	k w h	25,914	24,190	20,981	22,330
ガソリン使用量	L	32,690	35,014	36,882	33,291
軽油使用量	L	157,600	356,474	298,322	244,255
灯油使用量	L	2,104	2,934	2,091	1,954
廃棄物排出量	t				
産業廃棄物排出量	t	880	1,813	1,341	3,697
一般廃棄物排出量	t	11	10	11	8
総排水量(水資源投入量)	m ³	255	257	261	248

注:排水量の即手はしていないので、水使用量から処理業者に処分を依頼した切削油の量を削除して求めた。
購入電力の二酸化炭素排出係数は環境省報道発表の東北電力実排出係数 0.523kg-CO₂/kwhを使用。

2 環境目標の設定

当社では、平成29年度を基準年度として中期及び単年度の環境目標を、それぞれ表2のとおり設定し、環境活動に取り組んでおります。

表2 環境目標

項目	基準年度(平成29年度)比の削減(増加)率(%)				
	基準年度実績値	単位	令和元年度	令和2年度	令和3年度
二酸化炭素排出量	510,281	kgCO ₂	1%削減	2%削減	3%削減
購入電力使用量	25,914	kwh	1%削減	2%削減	3%削減
ガソリン使用量	190,290	L	1%削減	2%削減	3%削減
軽油使用量		L	1%削減	2%削減	3%削減
灯油使用量	2,104	L	1%削減	2%削減	3%削減
産業廃棄物排出量	7,100	kg	1%削減	2%削減	3%削減
一般廃棄物排出量	880	kg	1%削減	2%削減	3%削減
総排水量(水資源投入量)	255	m ³	1%削減	2%削減	3%削減
グリーン購入	環境ラベルを表示したものを購入	品種	環境ラベルを表示したものを購入		

6 環境活動計画

当社では、環境方針に基づき二酸化炭素、廃棄物、水使用量を削減し、環境目標を達成するため、従業員が一丸となって省エネルギー、廃棄物の削減・リサイクル及び節水等に取り組んでおります。

取組の実施状況の評価結果は、表3のとおりです。

表3 主な環境活動計画の内容と取組結果

項目	取組内容	評価	備考		
二酸化炭素排出量の抑制	照明	昼休みなど、部屋を使用していないときは消灯する	○		
		会議室、給湯室、トイレなど不在時は消灯する	◎		
		照明器具の適時清掃	○		
	冷暖房	適正温度を(冷房28度 暖房20度)を順守	○		
		エアコンフィルターをシーズンごとに掃除する	△		
	節電	昼休みなど、部屋を使用していないときは消灯する	◎		
		退社時は待機電源を切る	◎		
	車輛その他	排気ガス、騒音を抑えるため適正な車両整備を行う	◎		安全運転管理者による情報提供を行った
		冷暖房の控え目使用	○		
		ハイブリット車や低公害車への適時切り替え	◎		
	廃棄物の排出抑制	一般廃棄物	会議用資料の簡素化を図る		○
			両面印刷・両面コピーを徹底する		○
使用済み用紙の裏面を利用する			○		
使用済み封筒を再利用する			◎		
使用済みコピー用紙・段ボール・新聞等は所定の場所に分別する			◎		
産業廃棄物		分別した紙ごみは再生資源業者に引き渡し、リサイクルする	◎		
		パソコンで社内ネットワークを構築して文書を共有する	◎		
		廃油・廃プラ・金属くず・ガラスくず等は所定の置き場に分別保管する	◎		
		一般ごみが混載しないように定期的にチェックする	◎		
		産業廃棄物管理票(マニフェスト)をもとに廃棄物の適正な処理を行う	◎		
節水・排水	用水・排水	蛇口の水漏れがないか確認する	◎		
		水道水を出しすぎない	◎		
		雨水、地下水などの適正利用に努める	○		
		工事濁水などによる水質汚濁の防止に取り組んでいる	◎		
		事故防止や汚染防止のためにウエス、吸着マットは適切に保管する	◎		
その他の取組	施設・設備	重機などのアイドリングは効率よく行う	◎		
		騒音、振動などを発生させないよう作業方法・時間帯などに配慮する	◎		
		悪臭が発生する恐れがある作業を行うときは作業方法などに配慮する	◎		
		土砂が仮置き場などから流出しないように配慮する	◎		
グリーン購入	紙などの消耗品はリサイクルされたものを購入する お茶や洗剤などは詰替え用で準備する	◎	定着した		
		◎			

7 環境目標の実績

当社では、環境目標の達成状況の確認・評価を行いました。

今回は令和31年4月から令和2年3月までの実績についての評価結果を報告いたします。(以下、評価結果等について簡潔にコメントする)。

表4 当該年度の環境目標の達成状況等

項目	単位	基準年	令和元年度			環境目標の達成状況
		実績値	削減(増加)	目標値	実績値	
二酸化炭素排出量	kg-CO ₂	510,281	2%削減	500,075	723,955	未達成
電力使用量	kwh	25,914	2%削減	25,396	22,330	達成
ガソリン使用量	L	190,290	2%削減	186,484	277,545	未達成
軽油使用量	L		2%削減			
灯油使用量	L	2,104	2%削減	2,062	1,954	達成
廃棄物排出量						
一般廃棄物	kg	880	2%削減	862	800	達成
産業廃棄物	t	7,100	2%削減	6,958	3,697	達成
総排水量(節水)	m ³	255	2%削減	250	248	達成
グリーン購入	品種	環境ラベルを表示したものを購入		環境ラベルを表示したものを購入		達成
苦情ゼロ件	件			0	0	達成

環境活動の状況

時季別電力への契約変更により夜間電力の使用により、消費電力を削減した

8 環境活動計画の取組結果とその評価、次年度以降の取組内容

1. 取組結果の評価

表5 主な環境活動計画の内容と取組結果

項目		実施状況の評価	達成度
二酸化炭素排出量の抑制	照明	消灯等の取組は、定着した。 エアコンの設定温度は守られている。カーボンオフセットの為、岩手県有林Jクレジットを購入した 以上の取組みは的確に実施されている	○
	冷暖房		
	節電		
	車両その他		
廃棄物の排出抑制	一般廃棄物	両面コピーの徹底と紙ごみの分別が周知された	○
	産業廃棄物	マニフェストをもとに適正な処理を行っている	○
節水・排水	用水・排水	水道など水漏れチェックの張り紙を貼り、目標値を達成できた	○
その他の取組	施設・設備	施工現場での周辺住民からのクレームをゼロを達成できた。 発注者より、以下の表彰を受け、顧客満足の向上が図れた。 令和2年度 林野庁東北森林管理署 優良賞 熊沢支流治山工事	○
グリーン購入		お茶や洗剤などは詰め替え用を購入した	○
化学物質		化学物質の購入0	○

○:評価できる、△:まずまず評価できる、×:評価できない

2. 次年度の取組内容

(1)二酸化炭素排出量の削減

安全に配慮しエコ運転・アイドリングストップを徹底する。

(2)廃棄物の排出削減

材料など現場内で循環できるものは、循環させて使用する

(3)節水(排水対策)

ホースにストップノズルを付け、掃除や泥の洗い流し時はこまめに止めるようにする

(4)製品・サービスに関する取組

引き続き苦情0を目指す

質の高い施工をし、各表彰をめざし顧客満足の向上を図る。

9 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価並びに違反、訴訟等の有無

当社が法的義務を受ける建設業法など、環境関連法規について遵守状況をチェックしたところ違反はありませんでした。

また、過去3年間、関係当局からの違反等の指摘、住民等からの苦情、訴訟等について、問題がありませんでした。

10 代表者による全体評価と見直しの結果

見直し項目	評価	改善及び指示
1 環境方針		環境配慮とともに、安全衛生への最大限の取り組みを行なう。
2 環境目標	完成工事高によって使用量が変わるため今後も未達の可能性が高い	環境目標の単位を見直しを検討する
3 環境活動計画及び実施体制	その他については見直しを行わず引き続き実行する。	
4 その他 ()	なし	社内のコミュニケーションを図り、目標値と実績値の情報の共有化を密にする
5 全体評価 今期の工事は、土砂運搬や掘削が多く軽油の使用が増えた。今後、稼働の少ない重機を適時整理していくので改善されると考えられる。		